



**地域スモールビジネス研究会 『里山で生きる技術を磨くミライの職業訓練校』**

5月13日(水)、ミライの職業訓練校運営体制構築会議が行われました。農山村での生活技術を継承し、同時にクリエイティブな技能を見につけるための「ミライの職業訓練校」を設立するための準備事業について、話し合われました。

コースは、2コース。それぞれ3ヶ月(月1回)で開催し、20名ずつ募集をします。『基礎訓練コース』で、里山で学ぶことのできる様々な技術を体験し、『実践訓練コース』で、自分が学びたいコースに専念するスタイルでやっています。募集をかける前に、参加者にコースのイメージをもらうため、プレセミナーを7月12日(日)に開催することとなります。

**トヨタ自動車労働組合「農業体験in新盛町」開耕式**

5月10日(日)、トヨタ自動車労働組合の「農業体験in新盛町」開耕式と田起こし体験が足助地区すげの里で開催されました。17家族、48名が、豊田市中心部地域のブランド米ミネアサヒづくりを、新盛里山耕実行委員会(鈴木智会長)の指導の下、田起こしから収穫まで半年間に渡って体験します。

参加者自己紹介では、「自信がつけたいら自分で田を借りて米づくりがしたい」、「農業が自分に向いていることが分かったら田舎暮らしも考えてみたい」などの声も聞かれ、この事業が、都市農山村交流や移住にも結びつく有意義な取り組みであることが実感されました。



すげの里の前で、参加者全員で記念撮影

足助 ASUKE

# 6

## トヨタ生協体験プログラム「さつまいも苗植え体験」



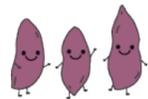
稲武 INABU

5月16日(土)、トヨタ生協の体験プログラム「さつまいも苗植え体験」が、稲武地区富永町の圃場で行われました。

朝まで降っていた雨もほとんど止んで、作業のしやすい天気となりました。昨年参加された方をはじめご家族連れや生協の職員も含め50名を超える人数で、ウグイスのさえずりを聞きながら苗植え作業を行いました。

地元農家の伊藤和久さんから「苗も生き物ですから、愛情を持って植えてやると良い手ができると思います」と、指導を受けながら、「二本もの苗を植え付けました」。

作業の後は、富永町の地域のお母さん方に



昼食におにぎりをほおぼる子どもたち

作って頂いた美味しい豚汁やおむすび、お漬け物を皆で食べました。

午後は、希望者は稲武の町並み散策をしたり、「どんぐり工房」で「ふんぶん独楽づくり」を体験したり、稲武を満喫できる一日となりました。

新しい時代の田舎暮らしデザイン。その一つの見本としてオーストラリアで生まれた「パーマカルチャー」というデザイン体系があります。伝統的な農業の知恵を学び、現代の科学技術を組み合わせ、通常の自然よりも高い生産性を持った「耕された生態系」を作り出すとともに、人間の精神や社会構造をも包括した「永続する文化」を形作る手法です。「パーマカルチャー」という言葉は、「パーマ(永久)ネット(永久)とアグリカルチャー(農業)、カルチャー(文化)」が組み合わされた造語です。

豊田市でも、是非このような手法をお手本に、単にエコロジカルでない「よりオシャレで、より美しい」田舎暮らしをデザインしていきたいものです。



地域おこし協力隊 坂部友隆

おいでん・さんそんセンター  
**スタッフミニコラム**

**File.5**  
パーマカルチャーに学ぶ

## 市民発！まちづくりシンポジウム『ミライのフツー☆チャレンジングコンテンツ』



豊田市は、新市誕生10年の取組として、人口減少や超高齢など、来るべき社会に向けて、「市民発！まちづくりシンポジウム『ミライのフツー☆チャレンジングコンテンツ』」を行いました。

このコンテンツは、『少し先の未来を見据え、地域課題の解決や新しい社会の創造を目指す』市民による事業提案をコンテスト形式で選定し、その事業実施を支援するものです。多数の応募がありましたが、厳正な審査の下、山里を舞台にした事業を提案した団体も数多く事業採択されました。始動しはじめた6事業についてレポートします。

### 1 『もうひとつのかぞくがつくる、豊田のふるさと-多世代交流による山村振興』



作業した畑での記念撮影

5月17日(日)、豊田市荻戸町にある休暇旅館&休耕地の畑にて豊田高専の学生による野菜の作り付け体験等のワークショップが行われました。地元との調整や場所の提供は、荻戸温泉有志の宇井さんご夫婦と豊田バンブー(株)のトム・ウィンセントさんなどがしています。作り付け体験は、地元農家の近藤さんにご指導いただき、夏野菜を植えました。作り付け体験が初めてだった学生も多く、「これ何の野菜?」「いつなるの?」「ナス食べたい!」などといった感想が自然と出て、とても楽しく賑やかな様子でした。

### 2 『耕隆(こうりゅう) in マイファーム』



企業ファームとして紹介いただいた農地

農山村の課題の一つである耕作放棄地を、企業や教育機関に利用してもらうことを目的としたこの事業。4月2日(木)、企業ファームを展開するに必要な農地、休憩や農具保管のための施設を(株)ジオオスの代表が見学。受入る農業指導をして頂ける地域の伊熊営業クラブの方に案内を頂きました。

### 3 『人と木をつなげるプロジェクト』



著作を楽しむ参加者

5月6日(木)、4月に稲武町にオープンしたお店「ピト」まで「マイ箸作り」のワークショップが開催されました。主催者は木材コーディネーター「樋口さん」とピトキオナーであり家具職人の松島さんご夫妻。このお二人のご指導のもと、参加者は

地元のヒノキ材を切ったり削ったりし、マイ箸を楽しそうに作成されました。

毎日の食事で何度も使う「お箸は、私たちにとって身近な暮らしの道具。そんな大事な道具を地元の木材を使用し、自分で作ることに、「学びのきっかけになつて欲しい」という主催者の思いが心に染み渡るように伝わってきました。

### 4 『中山間地域に「新しい養蚕業」を復活させ経済循環と交流の輪を創りだす事業』

5月16日(土)、講演会「これからの桑・蚕・繭が豊田商工会議所会館で開催され、県内外から70名程が参加されました。主催は、NPOマルベリークラブ中部です。

講演会では、岡谷蚕糸博物館館長の高林千幸さんと京都市の無菌養蚕システム研究所長の今村利勝さんから、蚕糸業の歴史と、食品、医療、工学など桑・蚕・繭のミライの可能性についてワクワクするようなお話がありました。

第2部のパネルディスカッションには、おいでん・さんセンター長鈴木木も参加し、「養蚕業の復活」では共感を得られにくいので、「桑ライフ」のような楽しいイメージが伝わるような発言をさせていただきました。健康的で楽しくお金にもなる「桑ライフ」に期待が膨らみます。

### 5 『OPEN INABU-オープンカントリー!』



当日配布されたチラシ



トヨタケ工業(株)の工場見学の様子

5月23日(土)に、第2回目を終え、次回第3回目は、8月8日(土)に予定されています。参加者募集のお知らせは、センターホームページ、またはフェイスブックページ「OPEN INABU」でご覧いただけますので、ぜひチェックしてください。

5月9日(土)に第1回目OPEN INABUが実施されました。午前中は、参加者の皆さんが、就農体験の会場になる大野瀬梨野営農組合の圃場を見学。第2回以降トウモロコシなどの作り付けが予定されている場所に、地元の方が敵立て、マルチ張りをされました。

午後からは就業体験会場であるトヨタケ工業(株)の工場見学。燃料電池自動車MIRAIやプリウスクラウンなどの内装シートが生産されている工場で約70名の女性のみなさんが縫製作業をされている様子を見学しました。

このマークがついている記事はおいでん・さんそんセンターが関わっています。